2024年３月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月14日

上場会社名　株式会社アミューズ　上場取引所　東
コード番号　4301　ＵＲＬ　https://www.amuse.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）中西　正樹
問合せ先責任者　（役職名）執行役員　（氏名）鈴木　啓太　ＭＡＩＬ　amuseir@amuse.co.jp
四半期報告書提出予定日　2023年11月14日　配当支払開始予定日　2023年12月５日
四半期決算補足説明資料作成の有無：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2024年３月期第２四半期の連結業績（2023年４月１日～2023年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年３月期第２四半期	22,933	4.4	16	△97.9	141	△84.4	△163	－
2023年３月期第２四半期	21,958	40.6	778	△41.4	909	△30.7	380	△69.7

（注）包括利益　2024年３月期第２四半期　△444百万円（－%）　2023年３月期第２四半期　1,205百万円（△8.2%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年３月期第２四半期	△9.89	－
2023年３月期第２四半期	22.29	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年３月期第２四半期	57,558	36,789	58.0
2023年３月期	58,294	37,581	59.0

（参考）自己資本　2024年３月期第２四半期　33,408百万円　2023年３月期　34,389百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年３月期	－	20.00	－	20.00	40.00
2024年３月期	－	20.00			
2024年３月期（予想）			－	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．2024年３月期の連結業績予想（2023年４月１日～2024年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,000	△10.5	2,700	△14.4	2,800	△17.2	1,650	△2.5	99.60

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：　無

新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年３月期２Ｑ	18,623,520株	2023年３月期	18,623,520株
②　期末自己株式数	2024年３月期２Ｑ	2,031,249株	2023年３月期	2,056,659株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2024年３月期２Ｑ	16,571,438株	2023年３月期２Ｑ	17,057,043株

（注）期末自己株式数には、「役員報酬ＢＩＰ信託」及び「株式付与ＥＳＯＰ信託」が保有する当社株式（2024年３月期２Ｑ374,080株、2023年３月期399,530株）が含まれております。また、「役員報酬ＢＩＰ信託」及び「株式付与ＥＳＯＰ信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2024年３月期２Ｑ394,920株、2023年３月期２Ｑ287,705株）。

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．５「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

１．決算補足説明資料はＴＤｎｅｔ及び当社ウェブサイトに同日公開しております。

２．当社は、2023年11月22日（水）に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会にて使用する決算補足説明資料は、開催後、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 5
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 5
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 8
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 9
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 10
（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（セグメント情報等） …… 11
（収益認識関係） …… 12
（重要な後発事象） …… 13

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

〔当第２四半期連結累計期間の経営成績〕

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　2022年４月１日 至　2022年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　2023年４月１日 至　2023年９月30日）	増減	増減率 （%）
営業収入	21,958	22,933	974	4.4
営業利益	778	16	△761	△97.9
経常利益	909	141	△767	△84.4
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	380	△163	△544	－

〔経営成績の分析〕

当第２四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用や所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり緩やかな回復が続くことが期待されました。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行きの懸念など、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクになっており、更に、物価上昇や金融資本市場の変動等の影響も引き続き注視する必要がありました。

このような状況の中、当社グループの経営成績は営業収入229億３千３百万円（前年同四半期比4.4%増）、営業利益１千６百万円（前年同四半期比97.9%減）、経常利益１億４千１百万円（前年同四半期比84.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失１億６千３百万円（前年同四半期は３億８千万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。前年同四半期に比べ、サザンオールスターズ45周年の活動に伴うグッズ・商品収入や旧譜の印税収入が増加した他、映像製作収入やＣＭ収入等が増加したこともあり営業収入は増収となりました。一方で、事業費補助金が減少したことに伴う営業原価の増加に加え、新規事業開発等でのコストの増加により減益となった結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上となりました。

＜営業収入＞

- グッズ・商品収入が増加
- 印税収入が増加
- 映像製作収入が増加
- ＣＭ収入が増加
- レーベル収入が減少
- 番組制作収入が減少

＜営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純損失＞

事業費補助金が減少したことに伴う営業原価の増加に加え、新規事業開発等でのコストの増加により減益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（営業収入）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　2022年４月１日 至　2022年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　2023年４月１日 至　2023年９月30日）	増減	増減率 （%）
イベント関連事業	12,348	12,750	402	3.3
音楽・映像事業	6,885	7,132	246	3.6
出演・ＣＭ事業	2,725	3,050	325	11.9
合計	21,958	22,933	974	4.4

（セグメント利益又は損失（△））

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　2022年４月１日 至　2022年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　2023年４月１日 至　2023年９月30日）	増減	増減率 （%）
イベント関連事業	△18	△563	△544	－
音楽・映像事業	616	417	△198	△32.2
出演・ＣＭ事業	180	161	△18	△10.4
調整額	－	－	－	－
合計	778	16	△761	△97.9

〔イベント関連事業〕

営業収入127億５千万円（前年同四半期比3.3%増）、セグメント損失５億６千３百万円（前年同四半期は１千８百万円のセグメント損失）となり、増収減益となりました。

［主な事業］

・ イベント収入：＜コンサート＞
エレファントカシマシ、ＢＡＢＹＭＥＴＡＬ、ＮＯＡ、ＳＥＫＡＩ ＮＯ ＯＷＡＲＩ、
ＢＥＧＩＮ、ｓ＊＊ｔ ｋｉｎｇｚ、Ｐｅｒｆｕｍｅ、桜田通、
Ｓｋｏｏｐ Ｏｎ Ｓｏｍｅｂｏｄｙ、折坂悠太のコンサートツアー
サザンオールスターズ、福山雅治、宮本浩次、ＦＬＯＷのコンサート
＜舞台・公演＞
熱海五郎一座「幕末ドラゴン～クセ強オンナと時をかけない男たち～」
ミュージカル「ＦＡＣＴＯＲＹ ＧＩＲＬＳ～私が描く物語～」
舞台「幾つの大罪～Ｈｏｗ ｍａｎｙ ｓｉｎｓ ａｒｅ ｔｈｅｒｅ？～」
ミュージカル「ヴァグラント」
ミュージカル「カラフル」
ミュージカル「マリー・キュリー」
・ 商品売上収入：コンサートグッズなど
・ ファンクラブ収入：サザンオールスターズ、福山雅治、星野源、Ｐｅｒｆｕｍｅ、ポルノグラフィティなど

＜営業収入＞

・ イベント収入の増加
（前年同四半期は福山雅治、ＳＥＫＡＩ ＮＯ ＯＷＡＲＩ、Ｐｅｒｆｕｍｅのコンサートツアー、地球ゴージャスによる公演など）
上記要因などにより増収となりました。

＜セグメント損失＞

イベント制作費の増加や事業開発に伴うコストの増加等により減益となりました。

〔音楽・映像事業〕

営業収入71億３千２百万円（前年同四半期比3.6%増）、セグメント利益４億１千７百万円（前年同四半期比32.2%減）となり、増収減益となりました。

［主な事業］

・ 印税収入（新譜・旧譜）：桑田佳祐、サザンオールスターズ、福山雅治、ポルノグラフィティ、星野源など
・ レーベル収入：ＢＡＢＹＭＥＴＡＬのライブＢｌｕ－ｒａｙ＆ＣＤなど
・ 番組制作収入：単発番組の制作受託など
・ 映像製作収入：映画「月の満ち欠け」の配信権、イベント興行の中継及び上映収入など
・ 映像作品販売収入：映画「月の満ち欠け」などのＢｌｕ－ｒａｙ＆ＤＶＤ販売収入

＜営業収入＞

・ 印税収入（新譜・旧譜）が増加
・ 映像製作収入が増加
・ レーベル収入が減少

（前年同四半期は福山雅治のオンラインライブＢｌｕ－ｒａｙ＆ＤＶＤ、Ｓａｕｃｙ Ｄｏｇのミニアルバムなど）

上記要因などにより増収となりました。

＜セグメント利益＞

原盤制作費等の増加により減益となりました。

〔出演・ＣＭ事業〕

営業収入30億５千万円（前年同四半期比11.9%増）、セグメント利益１億６千１百万円（前年同四半期比10.4%減）となり、増収減益となりました。

［主な事業］

・ 出演収入・ＣＭ収入：福山雅治、大泉洋、サザンオールスターズ、仲里依紗、星野源、ホラン千秋、安田顕、吉沢亮、吉高由里子、桜田通、三吉彩花、小関裕太、堀田真由、茅島みずきなど

＜営業収入＞

出演収入及びＣＭ収入の増加により増収となりました。

＜セグメント利益＞

出演収入及びＣＭ収入に係る営業原価の増加により減益となりました。

（２）財政状態に関する説明

（連結財政状態）

	前連結会計年度 （2023年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （2023年９月30日）	増減
総資産　（百万円）	58,294	57,558	△735
純資産　（百万円）	37,581	36,789	△792
自己資本比率　（%）	59.0	58.0	△1.0
１株当たり純資産　（円）	2,075.82	2,013.49	△62.33

（連結キャッシュ・フローの状況）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　2022年４月１日 至　2022年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　2023年４月１日 至　2023年９月30日）	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,581	△1,986	△6,568
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,194	△901	293
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,251	△437	1,814

①　資産、負債及び純資産の状況

当第２四半期連結会計期間末の総資産は575億５千８百万円となり、前連結会計年度末に比べ７億３千５百万円減少いたしました。主な減少要因は、流動資産「現金及び預金」及び投資その他の資産「投資有価証券」の減少によるものであります。

当第２四半期連結会計期間末の負債は207億６千９百万円となり、前連結会計年度末に比べ５千６百万円増加いたしました。主な増加要因は、流動負債「その他」の増加によるものであります。

当第２四半期連結会計期間末の純資産は367億８千９百万円となり、前連結会計年度末に比べ７億９千２百万円減少いたしました。主な減少要因は、「その他有価証券評価差額金」及び配当による「利益剰余金」の減少によるものであります。この結果、自己資本比率は58.0%となりました。

②　キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ30億１千７百万円減少し、当第２四半期連結会計期間末には291億４千５百万円となりました。

当第２四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は19億８千６百万円（前年同四半期は45億８千１百万円の獲得）となりました。

これは、主に営業債務の減少による資金減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は９億１百万円（前年同四半期は11億９千４百万円の使用）となりました。

これは、主に有形固定資産の取得及び無形固定資産の取得による資金減少要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は４億３千７百万円（前年同四半期は22億５千１百万円の使用）となりました。

これは、主に配当金の支払による資金減少要因によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2023年５月15日の「2023年３月期　決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

※上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2023年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （2023年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,679	29,667
営業未収入金	8,635	－
受取手形及び営業未収入金	－	9,496
商品及び製品	1,170	1,520
仕掛品	762	1,151
原材料及び貯蔵品	156	155
未収入金	2,180	1,640
その他	890	2,422
貸倒引当金	△167	△164
流動資産合計	46,308	45,889
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,353	2,440
土地	1,028	1,043
その他（純額）	879	926
有形固定資産合計	4,261	4,410
無形固定資産		
のれん	226	208
その他	635	632
無形固定資産合計	862	840
投資その他の資産		
投資有価証券	5,582	4,528
繰延税金資産	319	748
その他	1,067	1,306
貸倒引当金	△107	△165
投資その他の資産合計	6,862	6,418
固定資産合計	11,985	11,669
資産合計	58,294	57,558

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2023年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （2023年９月30日）
負債の部		
流動負債		
営業未払金	11,740	10,609
リース債務	6	6
未払法人税等	652	207
役員賞与引当金	36	－
従業員株式給付引当金	32	34
その他	6,506	8,155
流動負債合計	18,974	19,012
固定負債		
長期借入金	206	183
リース債務	3	0
役員株式給付引当金	74	107
退職給付に係る負債	1,437	1,449
その他	14	14
固定負債合計	1,737	1,756
負債合計	20,712	20,769
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,587	1,587
資本剰余金	2,284	2,284
利益剰余金	31,855	31,362
自己株式	△2,931	△2,877
株主資本合計	32,796	32,357
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,400	731
為替換算調整勘定	141	271
退職給付に係る調整累計額	51	47
その他の包括利益累計額合計	1,592	1,051
非支配株主持分	3,191	3,381
純資産合計	37,581	36,789
負債純資産合計	58,294	57,558

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　2022年４月１日 至　2022年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　2023年４月１日 至　2023年９月30日）
営業収入	21,958	22,933
営業原価	18,468	19,994
営業総利益	3,490	2,938
販売費及び一般管理費	2,712	2,922
営業利益	778	16
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	12	6
持分法による投資利益	90	96
為替差益	39	10
補助金収入	9	1
その他	13	15
営業外収益合計	166	131
営業外費用		
支払利息	0	2
事業組合投資損失	0	1
自己株式取得費用	32	－
その他	2	2
営業外費用合計	35	5
経常利益	909	141
特別利益		
固定資産売却益	270	－
関係会社清算益	3	－
特別利益合計	274	－
特別損失		
投資有価証券評価損	7	－
関係会社株式評価損	1	0
関係会社株式売却損	141	－
公演中止損失	36	－
特別損失合計	187	0
税金等調整前四半期純利益	995	141
法人税、住民税及び事業税	335	176
法人税等調整額	22	△132
法人税等合計	357	44
四半期純利益	638	97
非支配株主に帰属する四半期純利益	258	261
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	380	△163

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　2022年４月１日 至　2022年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　2023年４月１日 至　2023年９月30日）
四半期純利益	638	97
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	353	△668
為替換算調整勘定	216	129
退職給付に係る調整額	△3	△3
その他の包括利益合計	567	△541
四半期包括利益	1,205	△444
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	947	△705
非支配株主に係る四半期包括利益	258	261

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　2022年４月１日 至　2022年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　2023年４月１日 至　2023年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	995	141
減価償却費	176	261
のれん償却額	－	17
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△9	54
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△31	△36
役員株式給付引当金の増減額（△は減少）	16	47
従業員株式給付引当金の増減額（△は減少）	21	41
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	65	11
受取利息及び受取配当金	△14	△8
持分法による投資損益（△は益）	△90	△96
事業組合投資損益（△は益）	0	1
有形固定資産売却損益（△は益）	△270	－
投資有価証券評価損益（△は益）	7	－
関係会社株式売却損益（△は益）	141	－
関係会社株式評価損	1	0
営業債権の増減額（△は増加）	△1,110	△801
棚卸資産の増減額（△は増加）	366	△727
営業債務の増減額（△は減少）	1,496	△1,178
未払消費税等の増減額（△は減少）	253	△186
未収入金の増減額（△は増加）	1,776	540
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△269	△1,542
その他の流動負債の増減額（△は減少）	94	587
その他	782	1,467
小計	4,399	△1,404
利息及び配当金の受取額	14	8
利息の支払額	△0	△2
法人税等の支払額	△212	△587
法人税等の還付額	379	－
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,581	△1,986
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△500	△500
定期預金の払戻による収入	500	500
有形固定資産の取得による支出	△933	△341
有形固定資産の売却による収入	664	－
無形固定資産の取得による支出	△102	△157
敷金及び保証金の回収による収入	4	0
関係会社株式の取得による支出	△530	△126
投資有価証券の取得による支出	△91	△29
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△129	－
貸付金の回収による収入	75	32
その他	△152	△279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,194	△901
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	－	△23
自己株式の取得による支出	△1,486	△0
配当金の支払額	△706	△339
非支配株主への配当金の支払額	△54	△72
その他	△3	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,251	△437
現金及び現金同等物に係る換算差額	134	123
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,270	△3,202
現金及び現金同等物の期首残高	26,964	32,163
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	－	184
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,234	29,145

（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　2022年４月１日　至　2022年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	イベント関連事業	音楽・映像事業	出演・ＣＭ事業	計		
営業収入						
イベント収入	7,459	－	－	7,459	－	7,459
ファンクラブ・商品売上収入	4,888	－	－	4,888	－	4,888
音楽収入	－	4,210	－	4,210	－	4,210
映像収入	－	2,182	－	2,182	－	2,182
その他音楽・映像収入	－	492	－	492	－	492
出演・ＣＭ収入	－	－	2,725	2,725	－	2,725
顧客との契約から生じる収益	12,348	6,885	2,725	21,958	－	21,958
外部顧客への営業収入	12,348	6,885	2,725	21,958	－	21,958
セグメント間の内部営業収入又は振替高	53	58	0	111	△111	－
計	12,401	6,943	2,725	22,070	△111	21,958
セグメント利益又は損失（△）	△18	616	180	778	－	778

（注）１．報告セグメントに帰属しない全社費用の金額は、各報告セグメントの金額に按分しております。

２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間（自　2023年４月１日　至　2023年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	イベント関連事業	音楽・映像事業	出演・ＣＭ事業	計		
営業収入						
イベント収入	7,599	－	－	7,599	－	7,599
ファンクラブ・商品売上収入	5,150	－	－	5,150	－	5,150
音楽収入	－	4,393	－	4,393	－	4,393
映像収入	－	2,428	－	2,428	－	2,428
その他音楽・映像収入	－	310	－	310	－	310
出演・ＣＭ収入	－	－	3,050	3,050	－	3,050
顧客との契約から生じる収益	12,750	7,132	3,050	22,933	－	22,933
外部顧客への営業収入	12,750	7,132	3,050	22,933	－	22,933
セグメント間の内部営業収入又は振替高	330	102	13	446	△446	－
計	13,080	7,235	3,064	23,379	△446	22,933
セグメント利益又は損失（△）	△563	417	161	16	－	16

（注）１．報告セグメントに帰属しない全社費用の金額は、各報告セグメントの金額に按分しております。
２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

（重要な後発事象）

（株式取得による子会社化）

当社は、2023年９月20日開催の取締役会において、株式会社極東電視台の株式を取得し、子会社化することについて決議し、2023年10月１日に株式を取得しております。

１．株式取得の目的

株式会社極東電視台は 1999年の設立以来、キー局を中心に映像制作事業を展開し、数々の著名なレギュラー番組の制作実績を有しております。また、近年ではVODからの番組受注も増加しており、成長が見込まれる分野にも積極的に注力しております。

当社においてもかねてより映像制作を手掛けておりますが、今後は「世界と日本を繋ぐオリジナルコンテンツの創造」を注力分野と位置づけ、自社グループ内における制作体制を強化するとともに、映画・番組をはじめとした映像作品の制作を推し進めていく所存です。

今般の株式取得により、当社所属アーティストのコンテンツとのシナジーを生み出していくことはもちろんのことながら、両社のノウハウやネットワークを活かすことで、自社で著作権を保有するコンテンツの質と量を高め、国内外に発信していくことを見込んでおります。このような効果を総合的に判断し、株式取得を行うことといたしました。

２．買収する会社の概要

（１）名称	株式会社極東電視台
（２）所在地	東京都港区赤坂７-10-17 フォンテ赤坂ビル ２Ｆ
（３）代表者の役職・氏名	代表取締役 中村 昌哉
（４）主な事業内容	番組企画、映像制作、制作人材派遣、撮影機材レンタルなど
（５）資本金	10百万円
（６）設立年月日	1999年２月１日

３．株式取得の時期

2023年10月１日

４．取得株式数及び取得前後の所有株式の状況

（１）取得前の所有株式数	0株（議決権所有割合：0%）
（２）取得株式数	132株
（３）取得後の所有株式数	132株（議決権所有割合:66%）

５．支払資金の調達方法及び支払方法

自己資金により充当